

平成 27 年度 大学院（博士）学位論文要約

夫婦二人暮らしの高齢介護者の健康を守る 訪問看護支援指針に関する研究

人間生活学総合研究科 人間生活学専攻 森山恵美

指導教員 近喰ふじ子 教授

目 次

序論

第 1 章 問題の所在と本研究の意義

第 1 節 問題の所在と背景

第 2 節 本研究の目的と意義

第 3 節 本論文における用語の定義

本論

第 1 部 配偶者の介護を担う高齢介護者の特徴および訪問看護支援の現状と課題

第 1 章 高齢者をとりまく日本の社会情勢

第 1 節 人口動態と世帯構造の動向

第 2 節 在宅医療の必要性

第 2 章 介護保険と訪問看護

第 1 節 日本における介護保険制度創設の経緯と仕組み

第 2 節 介護保険サービス利用者と家族介護者の状況

第 3 節 訪問看護の機能と訪問看護師の専門性

第 3 章 高齢夫婦の特徴と老老介護における問題

第 1 節 高齢者の身体的な特徴と生活への影響

第 2 節 高齢夫婦の社会的、心理的な特徴

第 3 節 老老介護にまつわる介護殺人・介護心中・虐待

第 4 章 家族介護者支援の現状と課題

第 1 節 日本の家族介護者支援制度

第 2 節 諸外国の家族介護者支援制度

1. ドイツの場合

2. イギリスの場合

第 3 節 家族介護者への訪問看護支援に関する国内外の先行研究の動向と知見

第 4 節 家族介護者支援における課題

第2部 夫婦二人暮らしの高齢介護者への健康面に重点を置いた訪問看護支援指針の構築

第1章 訪問看護師による夫婦二人暮らしの高齢介護者への健康面に重点を置いた看護支援内容の概念化

第1節 研究目的

第2節 研究方法

第3節 研究結果

第4節 考察

第2章 夫婦二人暮らしの高齢介護者の健康状態悪化の実態と訪問看護支援の実態

第1節 研究目的

第2節 研究方法

第3節 高齢介護者の健康状態悪化の実態（研究結果1）

第4節 高齢介護者の健康面への訪問看護支援の実態（研究結果2）

第5節 介護者支援に対する訪問看護師の認識の分析（研究結果3）

第6節 考察

第3章 夫婦二人暮らしの高齢介護者への健康面に重点を置いた訪問看護支援指針

第1節 訪問看護支援指針の構成要素と概念

第2節 訪問看護支援指針の活用に向けた支援の具体例

結論

第1章 高齢介護者への訪問看護支援の展望と課題

第1節 総合考察と高齢介護者への支援の展望

第2節 提言と課題

要 約

本論文における論述の主題は、夫あるいは妻の介護を担いながら在宅で夫婦二人暮らしの生活を送っている、高齢な介護者の健康面に焦点をあて、訪問看護を中心とした支援指針を見出すことである。日本では高齢化の進展に伴い、慢性疾患や障がいを持ちながら自宅で療養生活を送る療養者、あるいは終末期を自宅で過ごしたいと願う人々が増加しているとともに、国としても在宅医療を推進している。これらの背景により夫婦二人暮らしの療養生活者も増加の一途をたどっている。2000年に創設された介護保険制度や在宅医療技術の進歩により在宅療養者本人への支援の充実が目指されている一方で、家族介護者への支援については十分とはいえない現状がある。家族と同居している療養者の場合には、介護者の心身の健康が守られてこそ、在宅療養生活の継続も可能となることから、家族介護者への支援は重要である。本研究は、家族

介護者の中でも介護力が脆弱で支援がより重要であると考えられる、高齢かつ単独で介護を担っている「夫婦二人暮らしの高齢介護者」を対象とし、健康面に重点を置いた訪問看護支援指針の構築を目指すとともに、高齢介護者への支援体制の強化を提言するものである。

本論文は、〈序論〉、〈本論 第1部〉、〈本論 第2部〉、〈結論〉で構成されている。〈序論〉では、本研究における問題の所在と背景、研究目的および意義について述べている。本論以降については以下のとおりである。

〈本論 第1部 配偶者の介護を担う高齢介護者の特徴および訪問看護支援の現状と課題〉

「第1章 高齢者を取りまく日本の社会情勢」では、日本の高齢化が世界の中でも速いスピードで進行してきたこと、三世帯が主流であった戦前と世帯構成が変わり夫婦のみの世帯や単独世帯が増加していることを統計資料から説明した。そして、同居の家族員が減少しているにも関わらず、高齢化に伴う医療費高騰の抑制という国策や、疾病を患ってもできるだけ自宅で暮らしたいという療養者自身の意志により、在宅医療が推進されていることから、今後ますます在宅療養者が増加すると考えられ、療養者のみならず介護者への支援の重要性が高いことを強調した。

「第2章 介護保険と訪問看護」では、第1章で述べた日本の高齢化対策としての介護保険制度創設の経緯と仕組みを概観し、家族介護者の中でも配偶者である介護者が増加していること、介護者の4人に1人はほぼ終日介護に追われていることから、介護者の担う介護負担がいかに大きいものであるかが明白であり、そのような状態が長期に及ぶことによる介護者の健康面への悪影響は深刻な問題であることを論じた。その上で、介護保険制度上の看護の対象が介護保険利用者本人と限定されていることと矛盾しながらも、本来、看護の対象は患者本人だけでなく家族をも含むものであり、多くの介護保険サービス業者や在宅医療関係職種の中で、訪問看護師こそが、医療職でありながら福祉の観点からも療養者および家族への支援を行うことが可能であることを法令に照らし合わせて述べている。

「第3章 高齢夫婦の特徴と老老介護における問題」では、本研究の対象である、配偶者を介護する高齢介護者について、なぜ、どのような部分に支援の必要性があるのかを、高齢者の特徴と関連付けて考察した。高齢者は、自身も加齢に伴う身体的な機能低下があるにもかかわらず夫婦間の介護については自分だけ、もしくは夫婦だけで乗り切ろうとする心理社会的な特徴があり、「介護の抱え込み」から「介護殺人・介護心中」、「介護者による虐待」という痛ましい事件を引き起こす要因となっていることを指摘し支援の必要性を強調している。

「第4章 家族介護者支援の現状と課題」では、家族介護者への支援制度について、日本ならびに、介護保険法の中に介護者への現金給付制度を持つドイツ、介護保険法はないが独立した介護者支援法を持つイギリスを例にとり、内容を論じた。医療や

福祉の法体系が異なる国家間での比較ではあるが、介護者支援の制度内容の多様性および利用率の比較から、日本における介護者支援体制の不足を指摘している。ただし日本とドイツの訪問看護師の介護者へのかかわりを比較すると、日本はドイツと比べて1回の訪問時間が長い傾向にあり、物理的に介護者とのコミュニケーションを充実させることが可能な点は利点と考えられ、今後も継続していくことが望ましいと考察している。さらに、家族介護者への訪問看護支援に関する国内外の文献検討を行い、国内の文献検討からは、家族介護者への共通する訪問看護支援内容として「不安の軽減」「介護者の意志の尊重」「レスパイトケア」「介護者の力を引き出す」の4つのカテゴリーを見出し、このうち介護者自身の健康面への支援は「レスパイトケア」1カテゴリーのみであったことから、介護者の健康状態悪化を予防するための積極的な支援の必要性を述べている。

〈本論 第2部 夫婦二人暮らしの高齢介護者への健康面に重点を置いた訪問看護支援指針の構築〉

「第1章 訪問看護師による夫婦二人暮らしの高齢介護者への健康面に重点を置いた看護支援内容の概念化」では、高齢夫婦二人暮らしの訪問看護利用家庭において介護者の健康状態の変化に遭遇した経験を持つ訪問看護師3名への面接調査の内容をグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した結果を記している。対象者から語られたデータから、中心カテゴリーである「介護者の状態変化の判断」と12のサブカテゴリーが抽出され4つのストーリーラインに分類された。この分析結果より、訪問看護師は高齢介護者の状態変化の有無にかかわらず健康面への支援を実施していること、介護者支援には「他職種との連携への試み」が不可欠であることが明らかになった。

「第2章 夫婦二人暮らしの高齢介護者の健康状態悪化の実態と訪問看護支援の実際」では、全国の訪問看護師3,000名を対象に実施した郵送調査(有効回答829名 回収率27.6%)の分析結果を記している。夫婦二人暮らしの高齢介護者の健康状態の悪化は高い頻度で生じているとともに、その状況を誰にも連絡しない介護者も多く、訪問看護師が訪問時に介護者の急変に遭遇し医療処置等を実施している場合があることが明らかになった。また、訪問看護師は介護者の健康面への支援をも意図的に実施していた。しかし、夫婦二人暮らしの在宅生活者に対する対応困難事例も多く、介護者支援の法制度を望む訪問看護師は多かった。

「第3章 夫婦二人暮らしの高齢介護者への健康面に重点を置いた訪問看護支援指針」では、第1部で得られた知見と第2部の調査結果をもとに本論文の中核となる、高齢介護者の健康面に対する訪問看護支援指針の構築を試みた。具体的な健康リスク因子を介護者自身の固有因子と介護負担による因子とに分けることにより、介護不足だけでなく、介護者自身への治療や介護の必要性をアセスメントすることを可能とした。リスクアセスメントは優先順位をつけた「安全面」「生活面」「介護面」の3つの

レベルから実施することで支援ニーズの緊急度を明確にした。また、介護者の健康状態悪化予防援助の具体的内容を示すとともに、健康状態悪化の兆候となる指標を併せて提示し、介護者から直接の訴えや相談がない場合でも支援ニーズのサインを早期に把握できるようにした。そして、実際に介護者の健康状態が悪化した際に行う救命処置等も含めるとともに、訪問看護師の判断や援助内容が当該夫婦の在宅生活を支えるすべての関係者に速やかに情報提供されること、多職種連携による介護者へのフィードバックが不可欠であることから、訪問看護師以外の職種の人々にも共通理解できるよう一連の訪問看護支援指針を図式化することで可視化を試みた。

〈結論〉では、これまでの調査結果から得られた有用な示唆を総合的に考察し、高齢介護者への支援の展望を論じた。夫婦二人暮らしの高齢介護者の健康状態悪化が高い頻度で生じていることと、配偶者を介護する高齢介護者の増加、介護殺人や介護心中の発生件数の横這い状態を併せてみると、今後も健康状態悪化に陥る高齢介護者の増加が予測され、高齢介護者自身への健康面への支援についての対策強化が急務であると考え。その具体的な方策として2つを提言している。1つは、訪問看護を中心とした高齢介護者の健康状態悪化予防対策であり、本研究で構築した訪問看護支援指針をもとに関連する職種と協働して、先を予測した意図的な支援を、療養者だけでなく介護者にも積極的に実施していくことである。もう1つは、家族介護者支援の法制度の整備である。家族介護者が安心して介護ができる仕組みを国が作ることが望まれる。その際には介護者自身が尊重されることが何よりも大切であり、信頼できる支援者の存在は欠かせないと考え。また、高齢者の特徴や傾向はその人の生きてきた時代背景に伴い変化していることから、法制度ありきの支援ではなく、個人に合わせた柔軟な対応が求められると考える。

本論文の一部は以下に報告掲載された。

- 1) 森山恵美, 關 優美子, 釜屋洋子: 家族介護者への訪問看護支援に関する国内文献の検討, ヘルスサイエンス研究, 2015, 19(1), p. 37-44. (本論第1部第4章)
- 2) 森山恵美, 關 優美子, 棚島智恵, 矢内つや子: 高齢介護者の状態変化の判断を中心とした訪問看護師の関わりの概念, 日本看護福祉学会論文集, 2015, 20(2), p. 197-210. (本論第2部第1章)